

2024年度
第5回 理事会議事録

2024年 8月 27日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2024年度 第5回理事会議事録

1. 日 時 2024年 8月 27日 (火) 13:00～17:00
2. 場 所 全構協 第一会議室
(本議場に出席しない理事及び監事はオンラインにて参加)
3. 構 成 員 14名
4. 出席構成員 14名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 報告事項
 - 1) 取組み課題及び委員会等検討体制について
 - 2) 鉄建協との要望活動について
 - 3) 賛助会員との懇談会実施について
 - 4) 委員会等活動状況報告
 - ① 技術委員会
 - ② 運営委員会
 - ③ 人づくり研修 WG
 - ④ 凶面問題対応検討 WG
 - ⑤ 一次加工品質管理 WG
 - 5) 青年部との意見交換会について
 - 6) 特定技能外国人材対応について
 - 7) 中国支部からの要望について
 - 8) その他
 - ①管理技術者等の変更管理について<全鉄評関連>
 - ②日本鉄鋼連盟のセミナーについて
 - (6) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 2024年度主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (7) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は理事総数 14 名のうち議場への出席者 6 名、オンラインでの出席者 8 名で出席者合計 14 名、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も 2 名に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

永井会長より「本日は、今後の協会としての活動・課題について、理事の皆さんと協議をさせていただきます。台風影響もあり、オンラインで参加している方もいますが、内容の濃い議論させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2024 年度第 4 回理事会の要点を読み上げ、確認了承された。

(5) 報告事項

1) 取組み課題及び委員会等検討体制について

今後取り組むべき課題と検討の体制について、議案書（p3-4）と別冊資料を使って協議を行った。従来から取組んできた継続的な課題と各理事（支部長）から提案された課題のそれぞれの項目について検討を行い、各課題について以下の内容が確認された。

- ・「ICT, IOT, DX の促進」の中で、“BIM” への対応に関しては、当面、日建連との活動をフォローすることとした。
- ・「ICT, IOT, DX の促進」の中で、“設備・機械の活用等による生産性向上” に関するテーマについては、対応方針, 対応内容等を検討していくこととした。
- ・「S 造化の推進」については、鉄連との連携の在り方を中心に、技術委員会で検討していくこととした。
- ・「快適職場認定を含めた労働環境整備」の問題については、委員会等での検討を前提に、検討体制については三役会で協議することとした。
- ・「人材育成」のテーマについては、実施中の研修の運営支援、研修の継続要否等について、運営委員会でフォローすることとした。尚、新たな研修の企画等の課題が出てきた場合は、別途検討組織の設置を検討する。
- ・「一次加工品質管理」については、設置を決めた WG で対応することとした。
- ・「JASS6 改訂への対応」については、引続き技術委員会で対応することとした。
- ・「業界の地位向上に向けた発信強化（業績調査関連）」については、例年実施

している業績調査の内容充実を含め、運営委員会で対応することとした。尚、「輸入鉄骨」関係については、今回実施予定の「業績調査」の中で、データを採る方向で検討することとした。

- ・「図面問題対応」については、当面の課題は既設置のWGで検討を続け、今後の普及・浸透については、必要に応じ運営委員会で対応することとした。尚、新たな課題が出た場合は、WG等検討組織の設置を検討することとした。
- ・「共済事業の充実」については、運営委員会で検討することとした。
- ・「JSCA等との意見交換会対応」については、活動趣旨の明確化を行った上で、前回理事会で設置を決めたWGで対応することとした。WGのメンバーについては検討を続ける。
- ・適正価格の維持、輸入鉄骨関係等、価格に関する取組み課題については、重要なテーマであり、活動の目標、検討体制について三役会で協議することとした。

上記以外にも、様々な課題・テーマが提案され、情報収集を行いつつ、優先順位を付けて順次対応していくこととした。

2) 鉄建協との要望活動について

鉄建協との要望活動について、議案書(p5)に沿って説明され、確認された。

- ・要望活動について、要望先18社を、会長、副会長等、延べ31名で訪問し、要望を伝えた。
- ・今回の重要テーマである鉄骨製作図問題(図面問題)について強く働きかけ、ゼネコン、設計事務所から一定の理解が得られた。
- ・特にゼネコンに関しては、「建設業界における2024年問題」、「人材の確保」等の課題を抱えており、ファブ業界とも問題意識を共有することから、歩み寄る姿勢が見えてきたと考えられる。

3) 賛助会員との懇談会実施について

賛助会員との懇談会、懇親会について、配布議案書(p6-8)と別冊資料に沿って説明され、以下の内容が確認された。

- ・9月24日の賛助会員との懇談会について、スケジュール、概要、出席者等が説明された。
- ・懇談会の中の各地区の概況については、各理事(支部長)に説明をお願いする旨依頼があった。
- ・意見交換のテーマについては、業種が多岐にわたり統一テーマの設定が難しいことから、重点課題は設定せず、自由に意見を提出していただきまとめている。
- ・理事の方には意見集約内容を事前送付し、内容を確認していただいた上で、当日に臨んでいただく様要請があった。

4) 委員会等活動状況報告

① 技術委員会

技術委員会について、議案書（p9-12）と別冊資料に沿って、岩永委員長より内容が説明され、確認された。

- ・ JASS 6 の対応については、前期の技術委員会で取り纏めていただいた資料を前提に整理を行った。前期の方のご努力等もあり、ここ 2 回の委員会でまとめることが出来た。
- ・ 整理の中では、法律との関係、構成員の利益（不利益）、デジタル化、分類方法等に配慮しながら確認を進めた。
- ・ 個別の確認事項として理事会に意見を求められた「コラムのフランジ精度」の問題については、本来メーカー側の問題であるとの考え方で、JASS6 の委員会に対しては提案しないこととした。
- ・ JASS6 に関する意見聴取をまとめ資料は、あくまでも要望段階の資料であり、全部が認められるものでもないことから、理事止まりとし、建築学会以外の外部には開示しないこととした。
- ・ 溶接施工 WG に関する進捗報告も実施された。

② 運営委員会

運営委員会について、議案書（p13）に沿って、妹尾委員長より内容が説明され、確認された。

- ・ 守秘義務の取扱いについて、委員会としての考え方が説明された。
- ・ 業績調査の準備について協議したことが報告され、従来の質問項目に加え、特定技能外国人材に関するデータ、生産トン数等について調査を行う方向であることが説明された。
- ・ 今後の予定として、9 月理事会で調査内容の承認をいただき調査開始予定。
- ・ 次回理事会では、調査の趣旨説明、回答率向上への協力要請等をさせていただく予定。
- ・ 本日の理事会で、委員会に対する課題の諮問が出ることを前提に、9 月 10 日に次回委員会を予定している。

③ 人づくり研修 WG

人づくり研修 WG について、議案書（p14-16）に沿って内容が説明され、確認された。

- ・ 人づくり研修の 1 日目、2 日目のカリキュラムについて説明があった。
- ・ 1 日目の講師は稲垣理事、2 日目はコンサル（エアノドエム）で対応予定。
- ・ 教材として作成予定の熊本城の P V について、熊本市、大林組、永井製作所の協力のもと制作が進んでいる旨報告があった。この P V は熊本城の復旧の中で鉄骨の果たした役割等を紹介する内容となっている。

- ・10月からの人づくり研修実施について、あらためての周知と協力要請があった。

④ 図面問題対応検討 WG

図面問題対応検討 WG について、議案書 (p17) と別冊資料の特約条項 (案) に沿って、小貫専務より説明され、以下の内容が確認された。

- ・第二弾の課題として、見積り条件書 (全構協共通約款) の作成を進めている。
- ・作成する見積り条件書については、「全構協共通約款」として足並みを揃えて運用する方針。
- ・鉄骨製作(図)に関する手戻り・遅延・追加等の問題についても、WG メンバーの意見を集約し具体例をまとめた。
- ・重要な整理事項である「図面の作成費用の範囲・定義の問題」、「必要な追加費用内容」についても解説を付けて整理した。
- ・本条件書は、まだ検討段階のものなので理事止まりとし、今後、WG、法律事務所との協議を行い、9月の理事会で完成版を報告する方向で進めたい。
- ・第二弾のもう一つの課題である下請け法の調査に関する解説書については、法律事務所の方でも建設業法との関係性等の整理に時間を要していることから、もうしばらく時間がかかる見通し。

⑤ 一次加工品質管理 WG

一次加工品質管理 WG について、議案書 (p18) の WG の名簿に沿って説明され、確認された。

- ・WG のメンバーはリーダーの岩永理事を含めファブ側 4 名、学識者 2 名で構成。オブザーバとして、全鉄評高野社長に入ってもらおう予定。
- ・今後の予定として、第一回の会議を 9 月 25 日に、まずはファブ側のメンバーのみで開催予定。第一回の会議では、検討の是非を含め方針確認等の打合せを実施し、その後学識者にも入っていただき、検討を進めていく予定。

5) 青年部との意見交換会について

青年部との意見交換会について、議案書 (p19) に沿って説明され確認された。

- ・例年実施している青年部との意見交換会を 11 月 20 日に開催する予定。
- ・従来の意見交換会は、個別のやり取りの形態で行っていたが、今年はグループディスカッション方式を前提に準備を進めることとした。
- ・各理事 (支部長) にグループディスカッションに入っていただき、討議を進める形式にするので、ご協力をお願いしたいとの説明があった。

6) 特定技能外国人材対応について

特定技能外国人材対応について、議案書（p20-32）に沿って説明され、以下の内容が確認された。

- ・今年3月末に分野追加が認められたとの説明を行っていたが、具体的な動きが出てきた。
- ・基準の一部改正という形で、「2441：鉄骨製造業」を含めた基準が発表される見込みである。
- ・分野追加が正式に発表された後、具体的な特定技能外国人材の対応が始まる。
- ・特定技能外国人材を受入れる企業の手続きとして、「協議・連絡会への加入」と「支援計画の策定」の対応が必要となる。今後、協会としては、この手続きに関してどのような対応を行うのかということが課題になる。
- ・当面は事務局で情報収集を行い、今後施策の検討・協議等の必要が出てくれば、WGの設置等についても検討していく。

7) 中国支部からの要望について

中国支部からの要望について、配布資料に沿って、妹尾理事より説明され、確認された。

- ・鉄骨製作管理技術者等の資格に関する講習等の対応について、感染症への罹患や特別な災害の発生等の非常事態の場合は、別会場日程への振替や在宅学習等の措置を検討して欲しいとの要望があった。
- ・また、鉄骨製作管理技術者の講習関連の資料の中に、「濃厚接触者」という記述があるが、感染症の分類変更を踏まえ、記述の変更について指摘があった。
- ・内容を精査した上で、地域性等も勘案の上、あらためて教育センターに対して、要望をすることとした。

8) その他

①管理技術者等の変更管理について<全鉄評関連>

工場認定にかかわる管理技術者等の変更管理（届）について、別冊資料に沿って、全鉄評高野社長より説明され、確認された。

- ・工場認定にかかわる変更管理について、国土交通省より管理を徹底するよう指導があった。
- ・届出の提出については、「管理技術者等変更届」は、変更事由発生から1ヶ月以内に提出することが求められている。
- ・変更事由が発生した日とその理由を記載する内容に届出様式を変更する。
- ・本内容は、来年2025年1月1日からの施行になるが、変更がある工場は、極力早く提出をお願いしたいとの説明があった。

②日本鉄鋼連盟のセミナーについて

日本鉄鋼連盟より「建築鋼構用鋼材と利用技術セミナー」の案内があったことについて説明があった。本セミナーは、鉄骨造建築の普及活動の一環であり、10月以降全国7都市で開催される。今後、各県組合にも展開される予定。

(6) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

本日現在の構成員数は、前回報告時(7月9日)より1社増加し、2,154社であること等が、議案書(p36-40)により報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

暦年2024年の1月-6月上半期の鉄骨推定所要量は193万トンとなり、厳しい環境が継続しているとの報告があった。引き続き、状況を確認していく必要がある。

3) 2024年度主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p42)により確認された。

4) 支部報告

〔北海道〕

- ・見積りも少なく、先行きについては不安感がある。
- ・一方、先々については、案件の話しも出てきているが、注意深く見ていく必要がある。

〔東北〕

- ・7月の報告から著変はない。見積りも少なく、環境は良くない。商社経由の物件の情報も聞こえてきており注意が必要。

〔関東〕

- ・見積りも少なく先行きは不透明、安値も出ているとの情報あり。
- ・何とか仲間内でやり繰りしながら凌いでいきたい。

〔北陸〕

- ・前回報告から大きな変化なし。情報交換をしながら、価格維持に努めている。能登地震の復旧については、少しずつ進んでいるとのこと。

〔中部〕

- ・見積りが少なく、中部支部の各県とも仕事が少ない状態。
- ・商社が安値で動いており、注意が必要（対応する必要あり）。

〔近畿〕

- ・大きな変化はないが、仕事は少ない状態。来年以降、物件の情報もあるが、当面は情報交換をしながら、仲間内で凌いでいく。
- ・近畿でも商社安値対応の情報あり。

〔中国〕

- ・全体に低調であり、鉄骨だけで生きていくのは厳しい環境。

〔四国〕

- ・大きな変化なし。
- ・稼働率は低下傾向、先々は厳しい見通し。

〔九州〕

- ・足元は仕事量も少なく、厳しい見通し。
- ・先々については、少し仕事が出てきそうな雰囲気あり。

(8) 閉会の辞

以上をもって、報告事項等、予定された事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅	(議 場)
副 会 長	大 竹	良 明	〃
〃	板 垣	昌 之	〃
専務理事	小 貫	武	〃
理 事	竹 原	慎 雅	(オンライン)
〃	三 浦	隆 宏	〃
〃	安 達	次 雄	〃
〃	前 田	正 美	〃
〃	稻 垣	法 信	〃
〃	佐 野	勝 也	〃
〃	妹 尾	一 人	〃
〃	登 尾	昌 弘	〃
〃	岩 永	洋 尚	(議 場)
理 事(相談役)	米 森	昭 夫	〃
監 事	村 上	眞 樹	(議 場)
〃	吉 岡	晋 吾	(オンライン)

理事総数	14名	うち出席者	14名
監事総数	2名	うち出席者	2名